

第2章. 現状と課題

1. 人口の現状分析（※小郡市人口ビジョン 令和2年改訂版より抜粋）

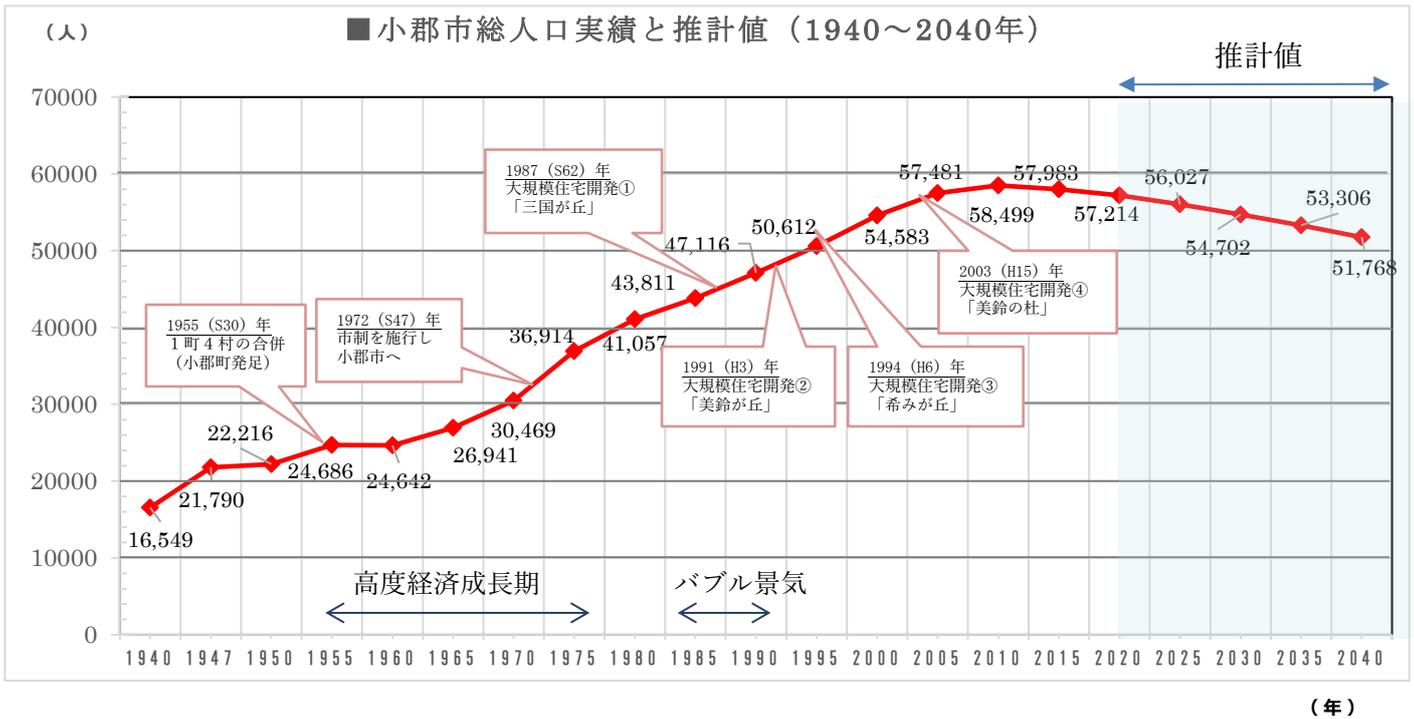
（1）人口動向分析

小郡市の過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、国から提供されるデータの活用等により、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

① 総人口の推移と将来推計

小郡市では、高度経済成長期に当たる1970（昭和45）年～1975（昭和50）年に人口が急増し、その後も緩やかに増加しています。

2011（平成23）年に策定された、第5次小郡市総合振興計画では、目標年次である2020（令和2）年の人口は60,000人を超えると推定されていましたが、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計では、2010（平成22）年の58,499人をピークに緩やかに減少していくと考えられています。



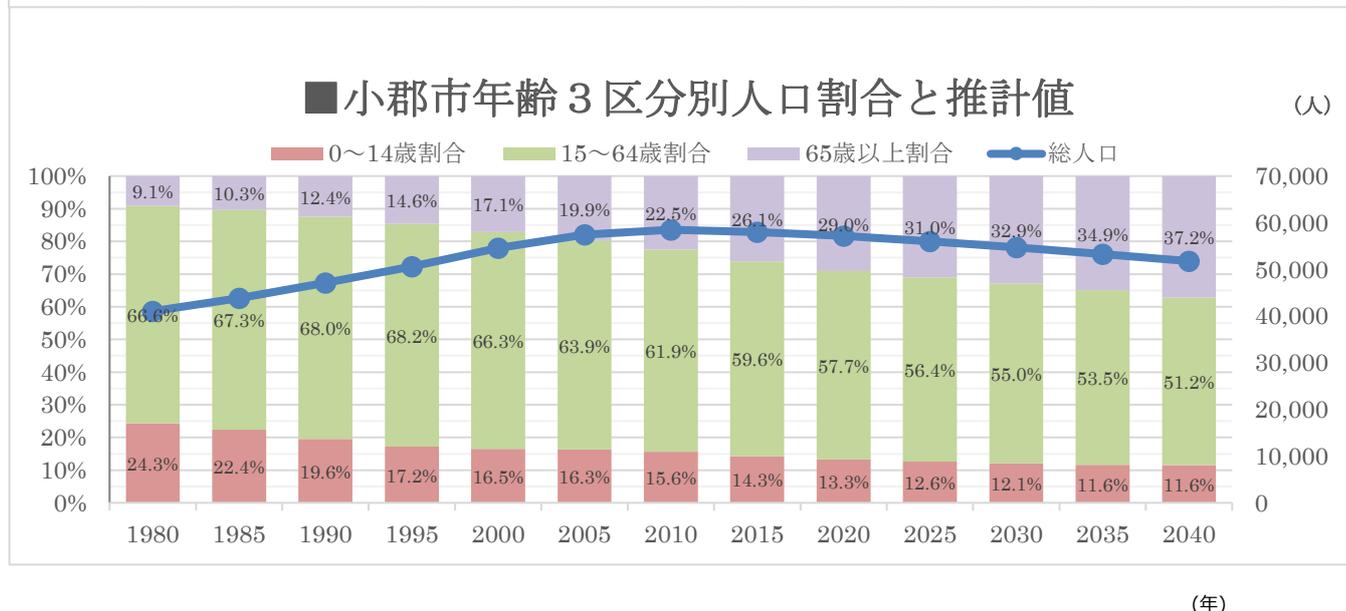
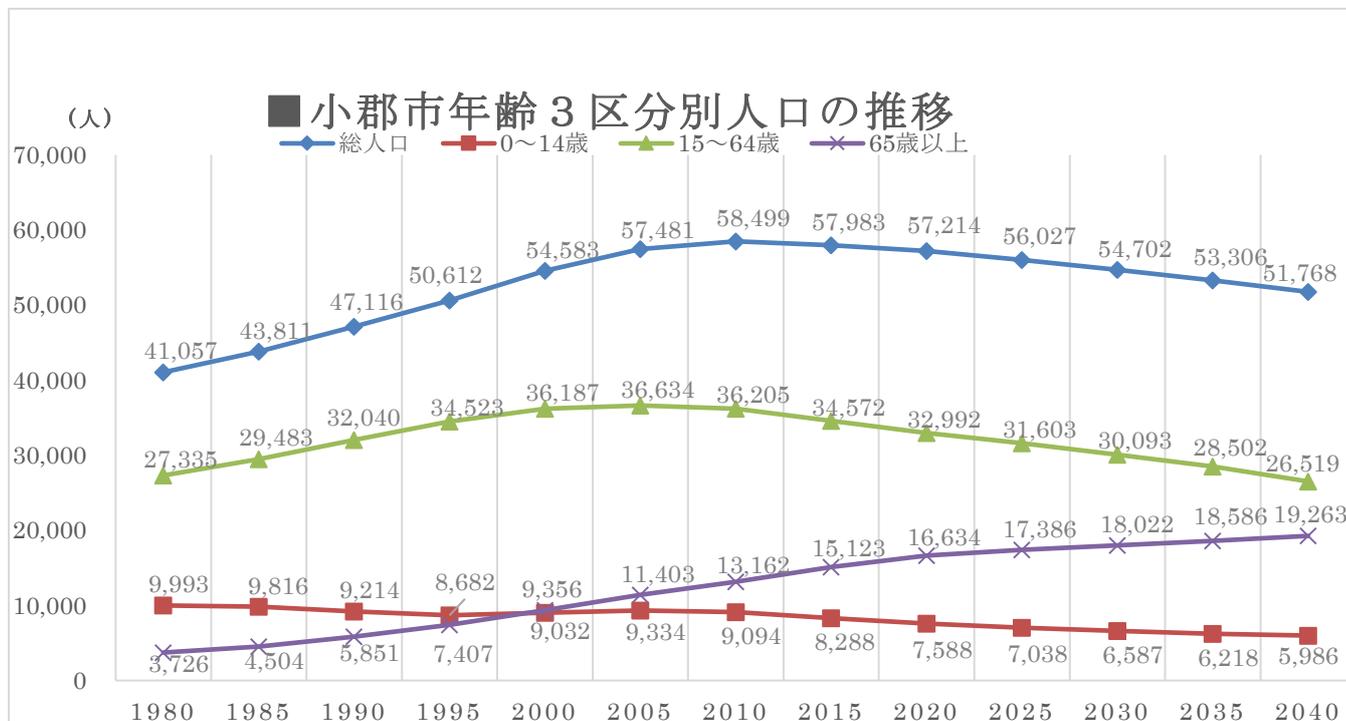
資料：2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値
2020年以降は「社人研」のデータに基づく推計値

② 年齢3区分別人口の推移と将来推移

年少人口（0～14歳）は、1980（昭和55）年から年々減少を続け、2040（令和22）年には1980（昭和55）年の約6割まで減少すると推計されています。

生産年齢人口（15～64歳）は2005（平成17）年の36,634人をピークに年々低下しています。

一方、老年人口（65歳以上）は1980（昭和55年）以降増加を続け、構成比は2000（平成12）年に年少人口を上回るなど、高齢化が急速に進行していることがわかります。



資料：2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

2020年以降は「社人研」のデータに基づく推計値

※総人口については、年齢不詳は含む

(2) スポーツ施設の概要

本計画の対象となる小郡市内のスポーツ施設の概要を以下に示します。小郡市体育館、小郡市勤労青少年体育センター（武道場）、小郡市弓道場については、建設から約45年経過しており、老朽化が進行していることや、武道場及び弓道場は耐震改修工事を行っていないことから新耐震基準（昭和56年改正）に適合していないことが分かります。特に、小郡市体育館については、建設当時児童体育館として建設された経緯があり、天井高が低いなど競技基準に適合していないことが指摘されています。

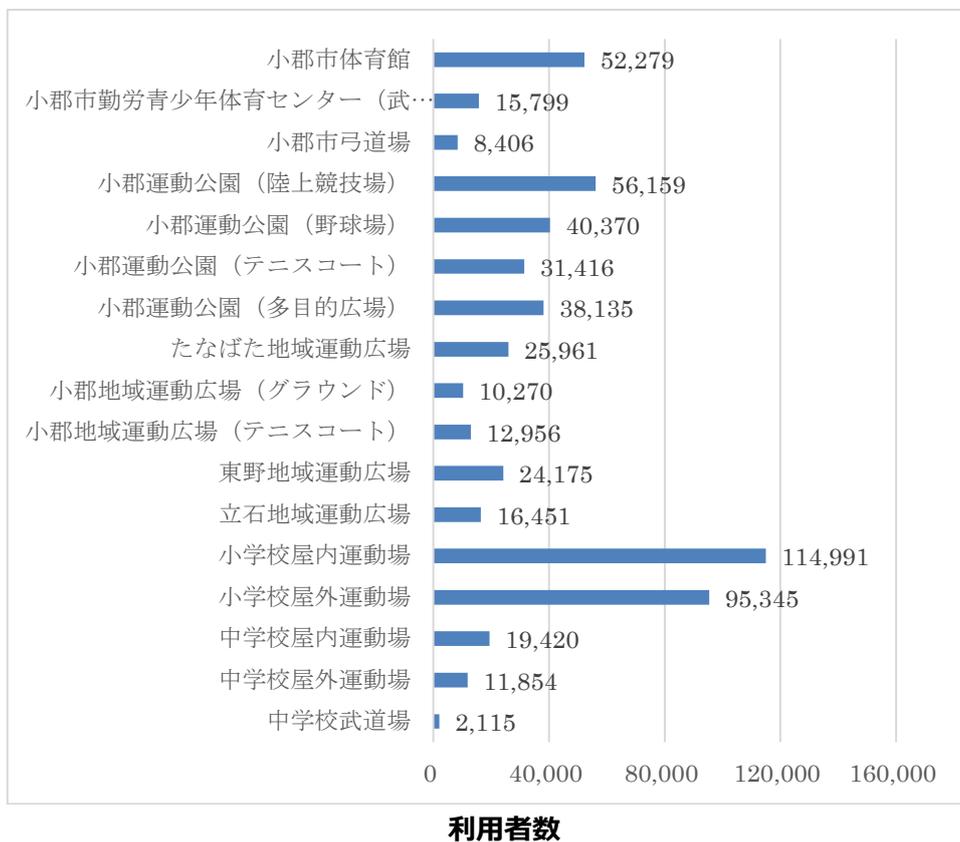
また、スポーツ施設の配置状況（次頁）を見ると、多くの施設が市の中央部に位置していますが、小・中学校の屋内運動場や屋外運動場が社会体育に開放されており、中央部以外の身近なスポーツ施設として機能していることが分かります。

▼ スポーツ施設の一覧

	施設名	建設 年次	経過 年数	建築 構造	耐震 基準
市 施 設	小郡市体育館	1974	45	RC造	耐震補強済み
	小郡市勤労青少年体育センター（武道場）	1975	44	RC造	不可
	小郡市弓道場	1976	43	木造	不可
	小郡運動公園（陸上競技場）	1994	25	RC造	可
	小郡運動公園（野球場）	1994	25	RC造	可
	小郡運動公園（テニスコート）	1994	25	-	-
	小郡運動公園（多目的広場）	1994	25	-	-
	小郡運動公園（アスレチック広場）	1994	25	-	-
	小郡運動公園（ジョギングコース）	1994	25	-	-
	たなばた地域運動広場	1994	25	-	-
	小郡地域運動広場	1984	35	-	-
	東野地域運動広場	1992	27	-	-
	立石地域運動広場	1994	25	-	-
	小・中学校屋内・屋外運動場	-	-	-	-
民 間 施 設	ブリヂストンスイミングスクール小郡	-	-	-	-
	小郡スイミングスクール 三国校	-	-	-	-
	小郡スイミングスクール 小郡校	-	-	-	-
	楽之館剣道場	-	-	-	-

また、市の運動施設の利用者数（平成30年度資料）を見ると、小郡市体育館及び小郡運動公園の利用者数が多く、年間約5万人の人が利用しています。また、小・中学校の屋内・屋外運動場についても利用者が多く、特に小学校の屋内・屋外運動場の利用が多いことが分かります。

▼ 各施設の利用者数（平成30年度）



(3) スポーツ事業の概要

小郡市で実施されているスポーツ事業の概要を以下に整理します。

▼ スポーツ事業一覧

事業の分類	事業名	開催 時期	開催場所
市民を対象とした事業	スポーツレクリエーション大会	9月	小郡市体育館
	市民ふれあい運動会	10月	陸上競技場
	おごおり駅伝	1月	運動公園周辺
	福岡小郡ハーフマラソン大会	3月	市内
子どもを対象とした事業	ジュニアスポーツフェスティバル	4月	小郡市体育館他
	ライジングゼファー福岡によるバスケットボール クリニック	7月	市内小学校体育館
	グリーンパークみんなであそぼう！ in おごおり	11月	陸上競技場
	福岡ソフトバンクホークスによる野球教室	12月	野球場
	サガン鳥栖サッカー教室 in おごおり	3月	陸上競技場
就学前の親子を対象とした事業	かるがも教室	年 20 回	小郡市体育館
	春休み・夏休み・冬休み軽スポーツチャレンジ教室	年 3 回	小郡市体育館
観戦型事業	ウエスタン・リーグ公式戦	-	野球場

2. スポーツ推進に向けた課題

小都市の特性やスポーツに関する状況を踏まえ、小都市におけるスポーツ推進に向けた課題を人、活動、仕組み、施設の4つに分類し整理します。

■ 人に関する課題

スポーツ・運動に対するきっかけづくり

市民アンケート調査及び小・中学生アンケート調査結果より、スポーツ・運動を行っている割合は7割と多く、意識が高いことが伺えます。しかし、スポーツ・運動をしていない約3割の人々の運動をしない理由等を見ると、慣れ親しむためのきっかけを提供することが必要であり、まずは市民のスポーツ・運動に対する意識を向上させる必要があります。

少子高齢化に伴うスポーツ人口の減少への対応

本市の高齢化率は、県の平均と比較すると低い方ですが、年々高くなっており、今後も高齢化は進むと考えられます。このような中で、市民アンケートの結果にもスポーツ活動を盛んにするために必要なこととして、中高年者のスポーツ活動の推進が求められています。また、小・中学生がスポーツをする環境を整えることも必要とされています。子どもから高齢者までスポーツに取り組める環境づくりが必要となります。

■ 活動に関する課題

スポーツを行う目的の多様化への対応

近年、スポーツをする目的には身体機能の向上や健康づくりといった目的に加えて、地域コミュニティの形成や世代間交流といった社会的な目的も求められています。本市においても、健康づくり以外にも余暇活動としてスポーツ・運動を行っている人も多くいます。市民がスポーツに取り組む目的が多様化している中で、競技スポーツだけではなく、いつでもどこでも誰でも気軽にできるスポーツ・レクリエーション活動も同時に推進していくことが重要です。

将来を担う子どものスポーツ活動の低迷

本市における小・中学生のスポーツに対する意識は、高い傾向にあります。しかしながら、団体ヒアリング結果を見るとジュニア世代の育成が課題として挙げられています。生涯スポーツの基礎は少年期のスポーツへの関わり方と強く関連します。すべての子どもたちが充実したスポーツ活動に接することが出来る取り組みと支援が重要です。

■ 仕組みに関する課題

スポーツに関する情報発信の強化

本市には総合型地域スポーツクラブ「小郡わいわいクラブ」がありますが、認知度及び参加率は高くなく活動内容もあまり知られていない状況となっており、本市が実施しているスポーツ事業についても認知度にバラつきがある状況です。また、各スポーツ団体は競技人口が伸び悩んでおり、各々で情報発信をしていますが、効果は芳しくない現状があります。したがって、スポーツを身近に感じ、参加するためのきっかけとして、イベントの周知や各団体の活動状況など、スポーツに関する情報発信を高める仕組みが必要です。

■ 施設に関する課題

スポーツ活動の場の老朽化と不足

本市のスポーツ施設は、小郡運動公園が屋外競技スポーツの拠点として多くの人々に利用されています。しかし、屋内競技スポーツの拠点となるべき小郡市体育館は老朽化や規模の不足が問題として市民アンケート、団体ヒアリングにおいて挙げられています。また、市の中央部にスポーツ施設が集まっていることから、学校施設の活用ニーズも高く、特に屋内競技スポーツで利用されています。したがって、市全体におけるスポーツ活動の場の位置付けを再整理し、必要に応じてソフトとハードの両面から整備を進めていく必要があります。